

仕事の原点

7月30日の朝刊に、湯涌の虫送りが復活する記事があるのを見つけた。

昭和62年、湯涌の地区が合同で、伝統の虫送りを行った。その後、新たな会場で開催されたが、安全上の課題があり、10年間中止していた。

私事、昭和63年4月、芝原中学校で臨時的通年講師として教壇に立った。夏に虫送りを見に行ったのを覚えているので、2年目だったようだ。

今日の夕方、久々に湯涌へ行った。そして、農村センターの虫送り会場で「湯涌伝承虫送り」を見てきた。

私の講師時代に話題を移す。

初めて教壇に立ったのは、2年生8名の理科の授業であった。

当時、できる限り教材研究と板書計画を立てて授業に臨んだが、途中で頭が真っ白になったのを覚えている。あの授業が私の原点である。

次年度採用されるのか毎日不安であったが、それ以上に全力で毎日を過ごしていたような気がする。

さて、時間が過ぎ、年齢と共に仕事がつらく思うことが出てきた。

そんなとき、初めて教壇に立った学校や思いで深い学校へ行った。

当時のことが思い出され、元気が出るような気がした。

北信越大会参加を控えた生徒たちが、練習で日焼けした顔をして、太鼓を叩いていた。そんな中学生と、地域の活動を見ることができた。

今日は「つらい」日ではないと思うが、久々に原点を思い出させる日であった。

業務内容は違っているが、教育に関わる者として、がんばっていきたいと思う。



保育園児、小学生が点火した。